

第 127 回東葛しぜん観察会

藤田 隆（松戸市）

夏の自然わくわく探検

日 時：2016 年 7 月 30 日（土）13～15 時 天気：晴
場 所：21 世紀の森と広場（松戸市）里の茶屋方面で…
参加者：一般 94 名（子ども 48 名）、指導員 26 名
担当指導員：藤田 隆・壱岐貞俊・野坂みよ

「ドングリの赤ちゃん探し」では、スダジイの今年のドングリ、来年ドングリになる赤ちゃんを両方探してもらいました。両方のドングリを見て、子どもよりも驚くお母さんの姿が印象的でした。「今年の赤ちゃんが来年になるとこんなに大きくなるの？」と驚いた声を上げたのはお父さん、ドングリの実物が楽しかったという感想、童謡ではない「ドングリの歌」を歌う家族もいました。スダジイの近くにあるシラカシ・クヌギのドングリの赤ちゃんも観察できました。周りにあるクヌギにはセダカシャチホコの幼虫が食事中のところも観察でき、生きた教材の面白味がここにありました。

「におい探検」では、クサギの葉のにおいからイメージを膨らませてもらいました。ピーナツバター・ナス・ゴマ・新鮮なキュウリ・ゾウのおなら・青臭い・香ばしい・変な臭いとさまざまでした。クサギの匂いにマイナスイメージを抱く方は少なかったようにみられました。クサギのある付近のヨモギ・セリ・ドクダミもにおいを体験してもらいました。クサギに絡まっていたカラスウリの説明では開花した時の見事さに話が及び、参加者はとても喜んでいました。

「コスモスに星をさがそう」では、虫めがねは小5くらいになると星の形が捉えられて感動していましたが、低学年の子どもたちには虫めがねを使わせるのは難しいという課題も明らかになりました。ほかにシロツメクサ、ヒマワリ、ソバ、カボチャの花がピークを迎えていたことから、そちらの観察でも盛り上りました。ヒマワリの茎の毛の密集部分を触ってみると、わかりやすいものから花の観察にアプローチして、低学年・幼児も楽しんでいました。

「ハス探検」では、葉に雨が降るとどうなるか？ 霧吹きで水をかけると水滴が集まって、大きな水たまりが出来、じっと見つめる子どもから「ゼリーみたい」との言葉が飛び出し。ファーブルでハスの葉を観察し、拡大した葉の表面の構造に感心していました。ハスの茎をバケツの水に浸して、茎のトンネルに勢いよく息を吹きこむとブクブクとなる泡立ちを体験する実験も楽しみました。

「ダンゴムシ競争」では、体の構造から観察、片方の足が 7 本、両方合わせると何本？ 「ダンゴムシは黒っぽく、すぐ丸くなる」けれど、「ワラジムシは白っぽい、平べったい」との違いがありました。段ボールによる手作り土俵を使った競争では、時間を忘れてレースを楽しみました。

「生き物さがし」では、捕虫網を振り回していたお父さんが興奮しながら駆け込んで、「これはオニヤンマですか？」正真正銘のオニヤンマでした。「大っきいねー」と手から手に渡っていくオニヤンマに、子どもたちの目が輝いていました。捕まえた昆虫と図鑑を見比べ名前が分かって喜ぶ子どもたち、オンブバッタとショウウリョウバッタの見分け方に納得した様子の参加者の姿も見られました。

子どもたちや家族連れが各ポイントで説明をする指導員がいなくても、「探検カードを持って、説明看板を読んで、自然に親しむこと」を目的に、この公園で企画をしました。今回は指導員がお手伝いをすることによって、参加者の皆さんに楽しんでいただけたと思います。



網で虫を捕って、図鑑で調べて、指導員からお話し